

●10年ぶりにカスミサンショウウオを発見 11日 20個の卵塊が見つかりました。出席者は8人で感激に浸りました。桜谷先生のお話しだと卵塊の数から見ると少なくとも7~8匹のメスが生育していることは確実であり、同じようにオスが同数は最低生活しているであろうと推測されます。午前中はこれまで確認されていた場所を丁寧に調べました。ここはコナラの落ち葉がしっかり積もっていて、流れるでもなくとどまるのでもなく浅い水たまりができていました。10年前とはあまり大きな変化が見られませんでした。湿地の範囲はかなり狭まっていた。水路も固定化されて変化が少なく少し生息環境が後退していました。午後から最後の場所と見当付けた場所に移動して、丁寧に水面を覗くと立派な卵塊が次から次へと見つかり大興奮と感激に包まれました。周辺にも同じように発見が続きました。一日中足元の悪い荒れ地を歩き回って苦労しましたが、とうとう発見できて、それも20個の発見で、合計1000匹の誕生にはなるだろうというすごい状況に出会ったのです。これだけ多くの卵が順調に大きくなれば心配は全くないのですが、1年に数匹が生き延びられるだけで生存競争は非常に厳しいものです。一般に寿命は14~5年で体調は10cm程度とされています。翌日の12日には15人の参加者でした。昨日の経験から一直線に観察場所に案内し、何の苦労もなく出会うことができました。それでも絶滅寸前種に出会えるチャンスはめったにない大変貴重な場面なのだと解説しました。また4億年前に両生類が陸上に上がり生活できるように発達した。その当時の姿のまま約4億年間今日まで進化することなく命を長らえてきているとの説明にうなずいておられました。

今回の発見場所は二か所に分かれていることもあって、広い範囲に生息環境があることも判りました。貴重な場所でもあります。京都府の条例で持ち出すこと移動することも禁じられています。50万円の罰金と1年以下の禁固刑に処される厳しい罰則と定められています。

●ジャガイモの植え付 13日 14名の参加 232株を植えつけ この日はかなりいい天気でした。週刊ニュースの案内を受けて、ご参加されてお母さんとお子さんの3ペアが自転車で来られました。三山木からだ長い上り坂となって大人でもかなりきついと思われそうですが子どもたちにとっては平気なのでしょうかね。よく頑張ってくれました。用意した種イモは232株でした。巽さんや石田さん親子は田植えを自らで実施され、水田の生き物の調査を行っておられるのです。ジャガイモの植え付けは初めてでしたが説明を聞いて、戸惑いもありましたが、徐々にこの深さや覆土の程度も判って順調に植え付けが進みました。一方昼食準備をする中西康太君の組ではご飯を炊いたり、猪子鍋を準備するなどうれしい食事準備が出来上がりました。普段あまり口にする事ができない里山の会のお食事、満腹され、次の取り組みにも参加したいとの感想がよせられています。畝(ウネ)つくりや冬の荒起しなど準備をしていただいた皆さんに感謝して終了しました。

●借用地の地形の変更を誤って実施、さっそく復元に取り組むことに 里山農園では長年の放置によって土地の地盤が緩くなっている場所が方々に存在しています。そして雨によって徐々に土砂が流出して人の背丈ほどの深さになる場所も数多く存在しています。草刈ができていないところへの踏み込みは大変危険です。ところで10号地に見られる土砂流出箇所は想像を超える大きさのもので、だれもが気付く状況にあります。しかしこの場所は近鉄不動産の所有地です。里山の会が使用許可を得ている場所ではありません。このままの放置によって万一の事故の発生が予想されますので、埋め戻し作業が行われました。一般的に他人の所有物の地形の変更はめったに手を付けてはならないものです。まして農地とされている畦地の削り取りなどは、許可なしに行ってはならない場所です。今回この地形変更がされたので、土砂の持ち込みを含め大至急復元させなければなりません。里山農園にお越しの場合少しでもお手伝いを行っていただきますと大助かりです。ご協力をお願いします。

●28年度の地域力再生プロジェクト事業交付金対象についてご提案を連絡ください

27年度の京都府地域力再生プロジェクト事業交付金は①竹蛇籠の講習会と設置、②里山農園でのオオムラサキ観察台の設置、③木津川の植物調査撮影の三本柱について交付金を頂きました。いづ

れも完成となって大きな成果が実りつつあります。ところで次年度(28年度)も京都府の地域力再生交付金事業の申請について皆様の御提案要望があればお聞かせください。現在検討中のものは、1) 自然塾の教育施設の充実 案内ルートの整備 樹木名や植物名や全体案内掲示板そして学習教材 図書の購入、2) 木津川の植物総覧写真集 結成 20 周年記念誌として発行 この 2 年間準備を進めて来たもの等が考えられます。

●第 11 回関西元気な地域づくり発表会 (国交省近畿地方整備局主催)24 日 里山の会大賞を受賞
 昨年 10 月に実施した木津川本川 15.2km の両岸に設置した竹蛇籠の取組みの報告を播川さんが行いました。この日の発表者は福井県や兵庫県奈良県大阪府京都府等からの 20 団体と個人でした。自治会ぐるみの取組み広域に存在する古民家の調査とその保存、環境保存など多種多様な取組みが発表され、元気に地域おこしで頑張っておられることがわかりました。基調講演は三島市で活動されている都留文教大学教授から 30 年の実績でした。開ロ一番右手にスコップ左手に缶ビールこれがスローガンですと紹介されました。汗を流してその後必ず飲み会で慰労し交流する。現在は 3 店舗で営業して 8000 人の会員で店の責任者には 36 万円の給料を支払っている。従業員も 100 人理事が 20 人です。活動は自分のために行うもの。活動は大人の学校だ。口達者な人が現場に来ない。今汗をかいてくれる人が少なくなっている。だから現場に魅力を作らないと来てくれない。現場に社会の心理がある。生活者の思いをかぐことが出来ると、短い言葉で話が進みました。聴衆の人たちはしっかり聞いておられました。

プログラムでは基調講演に続き活動発表、そしてポスター発表とその説明、参加者からの人気賛同投票の後審査会が開かれ、表彰が行われました。最後に場所を移して交流会がなごやかに実施され、ここでも皆さんから里山の会への高い評価がありました。ここで、一躍トップに躍り出たので、里山農園や竹蛇籠設置の見学、あるいは事務所を訪ねて来られることも予想されます。日頃の活動をしっかりまとめた文書管理や現場の整理整頓を心掛けるなど、丁寧さが必要ですね。

10 年ぶり カスミサンショウウオ (絶滅寸前種) 再発見

生物の進化 魚類 両生類 4 億年前陸上 進化せず	大部分の両生類は淡水域に生息している
シーラカンス…4 億年進化せず	(カエル イモリ サンショウウオ)
チンパージ…50 万年進化せず	気候の変化乾燥化の進化で住環境の衰退
体の特徴 鱗無し 卵に殻なし 湿気なしには生きられない 肉食	100 年以内に 両生類が絶滅するのではないか?

現状維持による保護が必要

2007 年に里山の会が京田辺市で発見して以来毎年調査を継続してきた。再発見はかなわなかった。昨年桜谷先生と再発見への検討を行ってきた。今年は里山の会発足 20 周年に当たり、初発見以来 10 年にもなるので再発見を目指した。結果今回の再発見となった。

オオムラサキの生育は確実であり、カヤネズミの生育も見られ、今回カスミサンショウウオの卵嚢が 10 年ぶりに発見された。そのほかキキョウやエビネ、コ克蘭、ムヨウラン、ササユリ、ウメバチソウ、スズサイコ等希少植物の生育地でもある。普賢寺地域は、人と自然の接点といわれる里山の典型的な姿を残す数少ない里山である。これらは京田辺市民の誇りであると同時に山城地域は言うに及ばず京都府域における貴重な財産である。

特に 10 年ぶりの今回の発見は、カスミサンショウウオが確実に生育している証明であり、この地域の環境が人工的に維持されているのではなく、自然そのものが継続維持されている証明である。

今回の発見を通じて、徹底した調査を実施し、貴重な自然の保護対策の実行が求められている。

137 億年前 ビッグバン 宇宙の誕生	4 億年前 両生類の上陸
46 億年前 地球の誕生 太陽系の誕生	3 億年前 恐竜時代
40 億年前 最初に生物出現	2 億年前 哺乳類 鳥類の出現
35 億年前 光合成物の出現	2 億年前 恐竜絶滅
21 億年前 真核生物出現	30 万年前 ホモ サピエンス
12 億年前 多細胞生物出現	2016 年 3 月 11 日京田辺市カスミサンショウウオ
6 億年前 カンブリア爆発	再発見 (初発見 2007 年 3 月 18 日)
5 億年前 魚類出現 植物と節足動物上陸	

100 年以内に 両生類が絶滅するのではないか?
 50 億年後 太陽の終焉 太陽系の運命?